平成23年度第１回中原区区民会議

日時　平成23年４月19日（火）15：00～

場所　中原区役所５階　502・503会議室

午後３時　　開　会

１　開会

司会　それでは、定刻でございますので、ただいまから平成23年度第１回中原区区民会議を開催させていただきます。

本日の会議の議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます４月１日付の人事異動により着任いたしました、私、副区長の石澤でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、冨岡委員、山川委員ご両名は所用により欠席との連絡をいただいております。また、立野参与、滝田参与、志村参与におかれましては所用により欠席との連絡をいただいております。なお、潮田参与におかれましては、所用のため、時間が間に合えば出席をしていただけるとのことでございます。

それでは初めに、中原区長の小野寺よりごあいさつを申し上げます。よろしくお願いします。

区長　皆さん、こんにちは。中原区長の小野寺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日皆様方のお顔を見て何か懐かしい気持ちでいっぱいです。３月に区民会議が予定されていたのですが、延期になりまして、１月19日以来ということで、本当に懐かしいという思いと、ほっとした思いで胸がいっぱいでございます。

さて、本日は大変お忙しい中、中原区区民会議にご出席いただきまして本当にありがとうございます。また、参与の方々におかれましても、お忙しい中この会議にご出席いただきまして、感謝申し上げたいと思います。

さて、既にご存じのとおり、東日本大震災により東北地方の太平洋岸を中心に大変な被害となりまして多くの方々がお亡くなりになり、また、避難生活を強いられております。現在、中原区のとどろきアリーナにおきましても106名ほどの方が被災地から避難して来ております。多くの方が福島から避難しておりまして、もう１カ月以上たちますでしょうか、その方たちに対しましてもお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い被災地の復興を願い、支援を続けていきたいと存じます。

なお、中原区にお住まいの方々はアリーナが大変近いということで、いろいろな方が駆けつけてくれまして、小さなお子さんからおばあちゃん、おじいちゃんたちも必要と思ういろいろ支援物資を届けてくださいまして、本当にありがとうございます。また、ボランティアとして何かができるんじゃないかということでたくさんの方がいらっしゃって、いろいろお世話をしていただきましたし、炊き出し等も行っております。そろそろ１カ月ほどたちまして、近ごろはやはり精神的にも少し参っているところがあるようです。スポーツとか、それから、子供たちを中心にして絵本を読み聞かせするなど、多くの方々が手を

差し伸べられまして、本当にありがたいことだと思っております。私も、人の温かさ、人が人を思う気持ちに心を動かされているというような状態でございます。

さて、さきの運営部会で、今期の２つ目の検討テーマということで、「地域における子育て応援体制づくり」というテーマを設定していただきました。今回と次回の２回にわたりましてこのテーマを区民会議でご検討いただければと思っております。本日は、このテーマを皆様にご検討、ご討議いただくに当たりまして、実際に地域での子育て活動にかかわっている方々から具体的な活動のご報告をいただき、知識を深めていただければと思います。

本日も傍聴の方に何人かお越しいただいております。区民会議へのご関心を高めていただいていることに感謝を申し上げたいと存じます。本日の会議がより実り多いものとなりますようご祈念申し上げまして、簡単ではございますが、私からのごあいさつとさせていただきます。今日もどうぞよろしくお願いしたいと思います。

司会　それでは続きまして、４月１日付で事務局職員の人事異動等がございましたので、職員から自己紹介をさせていただきます。

事務局　事務局を務めさせていただいております企画課の綱島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局　区民サービス部の風間でございます。よろしくお願いします。

事務局　保健福祉センターの都所と申します。よろしくどうぞお願いいたします。

事務局　こども支援室の豆白です。よろしくお願いいたします。

事務局　区民協働推進部生涯学習支援課長、中原市民館長の植村でございます。よろしくお願いします。

事務局　市民税課伊藤と申します。よろしくお願いします。

事務局　４月１日付で総務課に参りました諏佐と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局　地域振興課の川添です。よろしくお願いします。

司会　それでは、事務局、精いっぱい努めさせていただきますので、今年度もよろしくお願いいたします。

この会議でございますけれども、会議公開条例に基づきまして公開で行われるものでございます。また、会議録を作成し公開することとなりますので、ご了解をいただきたいと存じます。

まず初めに、事務局より資料の確認をさせていただきます。

事務局　事務局の綱島でございます。では、座って説明させていただきます。

まず、配付資料の確認をさせていただきます。

まず、次第でございます。別添１、席次表でございます。別添２、区民会議委員及び参与名簿でございます。それと、お手元のほうに資料でございます第３期中原区区民会議中

間報告書、この緑の冊子でございます。それと、それの中間報告書の概要版でございます。それと、なかはら区民会議だより第12号でございます。お手元に、ロジーちゃんと地球に優しい生活、これは、中原区は環境事業に力を入れてございまして、昨年の報告書でございます。

また本文に戻っていただきまして、資料１、第３期中原区区民会議のスケジュール及び審議の流れ（修正案）でございます。資料２といたしまして、事例１、ママカフェの資料で、プロジェクター用の印刷物、及び資料として２－１、２－２となってございます。続きまして、資料３でございます。事例２、公園井戸端会議プロジェクトの資料でございまして、プロジェクター用の印刷物、及びその資料の３－１、３－２となってございます。続きまして、資料４といたしまして、課題調査部会についてでございます。

続きまして、参考資料でございます。参考資料１といたしまして、中原区における子育て支援策について（修正版）でございます。続きまして、参考資料２、中原区地域福祉講座委託事業で、経過報告両面刷り２枚物で、松原委員からの提供資料でございます。続きまして、参考資料３－１、とどろきアリーナ関係書類、参考資料３－２は板倉委員からの東京新聞の切り抜きの記事でございます。続きまして、参考資料４、神奈川新聞の切り抜きで、杉野委員からの提供資料でございます。続きまして、参考資料５、平成23年度「中原区地域課題対応事業」計画一覧表、これは２枚になってございます。最後に、参考資料６、中原区区民会議地域課題対応事業検討部会要領でございます。以上でございます。

司会　資料が多いですけれども、よろしいでしょうか。会議途中で落丁等ございましたら、また事務局のほうに声をかけていただければ、結構だと思います。

それでは、ここからの進行は委員長にお任せしたいと存じます。鈴木委員長、よろしくお願いいたします。

鈴木委員長　改めまして、皆様、こんにちは。３月11日の大震災で我々の区民会議も延びまして、したがいまして、今回が今年度第１回ということになります。毎日、新聞やテレビなどの報道、暗いニュースばかりですが、せめて前向きに皆さんで意見を出し合って、生きていければというふうに考えております。

２　中原区区民会議中間報告書について

鈴木委員長　それでは、次第に従いまして議事を進めたいと思います。

先ほど話しましたけれども、今回は平成23年度第１回中原区区民会議ということになっております。議事に入ります前に、皆様のお手元に平成22年度第３期中原区区民会議の中間報告書が作成されましたので、区長に報告させていただきたいと思います。

この中間報告では、第２回、第３回の区民会議の検討テーマでありました「安全・安心のきずなづくりに向けて」の取り組みについてをまとめております。昨年10月の第２回区民会議が終了後、11月に、委員で上丸子小学校、中原中学校避難所運営訓練に参加いたし

ました。また、防災の啓発資料の配布と一緒に、なかはら子ども未来フェスタでは、小さいお子さんたちがたくさん来たんですけれども、子育て中の若い保護者の皆様、来場者の皆様へアンケートを行うなど、課題解決に向けまして検討材料とさせていただきました。また、今年１月の第３回区民会議では、課題解決に向けた具体的な取り組みを決定して、早速、防災出前講座の開催、それから、子育てサロンでの子育て中の親子への防災の紙芝居などの実施をしたことや、防災意識の向上を目指した広報などについて取りまとめまして、実際に行っている様子を紹介しております。

それでは、区長に、第３期中原区区民会議の中間報告書をお渡ししたいと思います。

〔　委員長から区長へ報告書が渡される　〕

区長　ご苦労さまです。ありがとうございます。

３　会議録確認委員の選任

鈴木委員長　それでは、無事、区長様に報告書をお渡しできましたので、会議録確認委員の選任をさせていただきます。前回が岡本委員と川﨑委員でございまして、名簿の順番ということで大変恐縮でございますけれども、反町委員と寺岡委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

４　第３期区民会議のスケジュール及び審議について

鈴木委員長　それでは、議題に入りたいと思います。議題に入ります前に、区民会議の今後の審議の進め方につきまして、事務局からスケジュールについての説明をお願いいたします。

事務局　それでは、資料１、第３期中原区区民会議のスケジュール及び審議の流れ（修正案）をごらんいただきたいと存じます。

先ほど区長、委員長から話がございましたように、本来であれば３月に第４回目の区民会議を実施するところでございましたが、震災の関係で、今回翌年度へ繰り越しまして、本日４月19日が平成23年度の第１回区民会議となります。続きまして、７月に第２回目の区民会議を開催いたしまして、今回のテーマの内容を審議いたします。また、10月に第３回、１月に第４回の区民会議を開催いたしまして、３つ目の検討課題につきまして審議をいたしたいと考えてございます。さらに、３月に第５回区民会議を開催し、報告書案を確定していきたいと考えてございます。したがいまして、今年度は本会議を５回開催いたしまして、その間、資料のとおり各専門部会を開催していきたいと考えてございます。以上でございます。

鈴木委員長　どうもありがとうございます。それでは、第３期の区民会議では、検討テーマを審議するに当たりまして、課題調査部会、運営部会の審議も挟みまして、おおむね２回の全体会議で審議を行うことを想定しております。本日の会議では、主に課題の現状に

つきまして委員の認識の共有化を図り、このテーマについて区民会議としてどの部分を中心に取り組んでいくことができるのかを皆さんで審議していきたいと思っております。本日の審議によって、次回の７月の本会議に向けまして、課題調査部会での調査事項を明確にしていければいいかなというふうに考えております。

また、先ほど課長から説明がございましたが、今年度は今回を含めまして５回の会議を想定しております。後半部分では、このスケジュール表のとおり大変厳しい日程となっております。皆さんもそれぞれの団体でお忙しいと思いますけれども、このスケジュールにのっとりまして進めていきたいと思いますので、よろしいでしょうか。スケジュールにつきましてはいかがでしょうか。――大丈夫ですか。それでは、今のところ大丈夫ということで進めていきたいと思います。

５　議題

「地域における子育て応援体制づくり」

（１）地域の活動事例紹介

ウ．市民ミュージアム「ママカフェ」など

鈴木委員長　それでは、まず議題、地域における子育て応援体制づくりにつきまして、前回、１月に開催しました第３回区民会議では、どのような場や仕組みが必要であるかについて審議しました。もう１つの検討テーマである「地域における子育て応援体制づくり」につきまして、今回お二方のゲストを迎えまして事例を紹介させていただきたいと思います。我々の区民会議では、こういう事例発表は今回が初めてでございます。具体的な子育てに関する地域の活動としてどういった取り組みが必要であるのか、これを見させていただいて考えていきたいと思います。

まず、三星とく子さんから子育て支援の実情について説明をしていただきます。資料の２－１、２－２をごらんください。三星さんは、子育て中のお母さん向けに自主サロンを主宰されたり、子育て中のお母さん同士の交流や情報提供など、子育てふれあい広場として、市民ミュージアムでママカフェを担当してかかわっておられるなど、とにかく子育て中のお母さんにとってはよき先輩として幅広く活躍されていると聞いております。

では、三星さん、よろしくお願いいたします。

〔　パワーポイント　〕

三星　皆様、こんにちは。三星と申します。よろしくお願いいたします。

今、大分過大広告をしていただきまして、話しづらくなっているところですが、きょうは市民ミュージアムで行われているママカフェのことについてお話をさせていただきます。３月まで市民ミュージアムに在職しておりまして、今はかわさき市民活動センターのほうに移っておりますが、私からママカフェを紹介させていただきます。

ママカフェってまず何だろうというふうに思われると思いますが、喫茶店の中に子ども

の遊ぶスペースがあり、そのスペースには子どもの安全を見守るボランティアの人がいるというイメージを持っていただければいいかなと思います。

なぜ市民ミュージアムでこの子育て支援を考えたかというところなんですけれども、ミュージアムは当然地域の中の施設です。幼いころから、文化芸術や地域の歴史に触れる機会を提供したい小さい子どもさんを連れていると、ああいう博物館、美術館はうるさくしたら入れないという、とても敷居を高く感じられていることもあるかと思いますけれども、その辺をぐっと敷居を低くして、地域にある自分たちの施設なんだという意識で気楽に来てもらいたい。そのためには、やはり来られるきっかけづくりが何か必要だということがまず１つです。それから、子育て支援につきましては、官民問わず、さまざまなところでの事業といいますか、いろんな取り組みがされているわけですけれども、そこに市民ミュージアムも加わろうじゃないかと考えました。それが子育て支援を始めようと思ったきっかけなんです。

なぜ、具体的にママカフェというのができてきたか。まず私は、市民ミュージアムへ行ってから、あのとても大きな館内、施設の中を一生懸命隅から隅まで歩いてみました。ところが、この中のどこに小さい子どもの声が響いても大丈夫なところがあるんだろうかとすごく不安になりました。とても難しいです。展示室の中で、やはりいらっしゃった方々にとっては静かに作品などを見て心で考えたり感じたりする場所ですので、そういう施設の中で子どもたちの大きな声が響くということで、皆さんに受け入れてもらえるんだろうかと、そういう不安がありまして、実は、今この席にいらっしゃいます、こども支援室の豆白さんのところにご相談に上がりました。そうしましたら、子育てサロンや子育て広場に来ているお母さんたちの中で、お茶を飲みながらお話ができる、そういう場所があるといいねと話していますよというのを聞かせていただいて、それならミュージアムのレストランを使って何かできるんじゃないかというふうになったわけです。

そして、早速レストランのオーナーと相談をいたしました。快く受け入れてくれました。でも、レストランのちょうどオープンの時間に完全に合わせてしまいますと、一般の方へのこともあります。そして、小さい子どもを連れているお母さんたちというのは、ほかの方への気遣いがとても強いんですね。小さい子どもを連れていて食事をしていると、騒がしくなったらどうしよう、ぐずったらどうしよう、ほかの人に迷惑がかかる、そういう気持ちが第一番に働きます。そこで、時間を考えてみることにしました。レストランが始まる１時間前。11時オープンですので、では、10時からママカフェをスタートさせましょう。でも、１時間だけでは足りないので、では、11時半まで。レストランのオープンから30分ダブりますが、その点は一般のお客様にもご理解をいただこう。また、一般の方にもミュージアムでこういうこともしていると知ってもらうためには、多少時間のダブりがあったほうがいいのかなと考えました。

それから、ボランティアさんです。遊びスペースにいてくれるボランティアさんを募り

ましたというよりも、地域で保育ボランティアや子育て支援の活動をされている方に協力をしていただくことになりました。その中のお１人がこちらの区民会議委員の松本さんです。本当は松本さんにお話ししてもらったほうがもっと詳しいかもしれませんけれども、松本さんにもご協力いただいて、ボランティアさんとどのように進めていくかの打ち合わせを行いました。これが一応ママカフェのどんなものであるかということと、立ち上げまでのきっかけといいますか、そういうところになります。

では次に、活動の様子なんですけれども、これはちょうどミュージアムのレストランの入り口です。右隅のほうにちょっとテーブルが置いてあったり、そのちょっと手前に赤いいすが重なっているのが見えるかと思いますが、レストランの中の３テーブルを撤去しました。外に出しまして、その空いた場所に養生シートを敷いたり、マットを敷いたりして遊びスペースをつくります。これは、担当の職員とボランティアさんにご協力をいただいて準備を進めていきます。９時半から準備を始めて、30分間の間に、テーブルの撤去、遊びスペースの設置、そこにはおもちゃや絵本を置きます。当然何かあったときのために、ティッシュとかごみ箱とか、それから救急の消毒液とかバンドエイドですとかそういうものも用意いたします。そして、10時にオープンをいたします。

このようにして、この日は双子ちゃんをお持ちのお母さんたちが３組来ました。ママカフェは、試行でオープンしたのが21年12月です。そして、22年１月から正式オープンしたので、まだ１年と３カ月ぐらいのものなんですけれども、始めた当初は、皆さんこういう場がどんなに待ち遠しかったんだろうと思うぐらいに、一応５席で20組という制限をしているんですが、その倍の40組も来まして、お断りするのにすごく心を痛めた時期もあります。当然気候ですとか、そのときの状況で来る人たちの組数というのは本当にばらばらなんですね。ちょうどこちらの区役所の方が取材に来ていただいたときは双子ちゃん３組が来て、静かに落ちついたママカフェの日でした。

左のほうなんですけれども、ママカフェに初めて来た人には、ママカフェはどんな場所であるかということと、それから、どんなことをお願いするか。例えば、ここに来て遊びスペースがあってボランティアさんがいますが、その人に完全に預けるということではないんですよ、一緒に見ましょうねということを基本に置いてあり、そのことを伝えます。お母さんから離れられてそこで遊んでいられる子、それから、お母さんと絶対一緒じゃないとだめな子、いろいろです。お母さんは、できるだけ遊びスペースで子どもたちが遊んでいてくれて、その離れている本当に10分、15分でもいいので、レストランにコーヒーとかデザートを頼んでゆっくりしたい。こちらは有料で提供しているんですけれども、後で説明いたしますが、レストランスタッフがママカフェメニューというセットメニューなども考えてくれまして、お友達と子育てのお話をしたりしながら、テーブルでちょっとティータイムを楽しめます。そういう空間を求めているわけなんですね。初めての方にはそのようにして、小さい用紙にお願いなどを書いたものを渡すというふうにしております。そ

れぞれ本当に思い思いで、子どもと一緒に遊ぶ人、それから、子どもが遊びスペースにいられるから、ではこちらに座って友達とお茶を飲みましょうとか、子どもと一緒にお茶を楽しんだ後に遊びスペースでも親子一緒に遊んだりとか、それぞれの方たちが本当に自由にその時間を過ごします。ボランティアのほうの姿勢は、預かるということではないので、お母さんから離れて遊んでいてもそのうち飽きてぐずったりとかした場合でお話に夢中になって、自分の子どもがもしかしたらアンテナから外れちゃっているかなと気がついたときには、ちょっと声をかけて、「お母さんのところにもうそろそろ行きたいみたいですよ」とか言いつつ、お母さんの元にお子さんをもどすというふうにして過ごしていきます。

これは、ぼやき・つぶやき自由帳というものです。子どもさんを連れてその場所に来た人に、できれば心のうちといいますか、子育てのちょっと悩んでいるみたいなことも書いてもらえるといいのかなというふうに思ったんですが、読んでみますと、こういうママカフェという場所についての感想がほとんどです。でも、皆さん、やっぱりこういう場所が欲しい、必要と思われているようで、とても喜んでくれています。その中で、うちの子は男の子なので、もうちょっと男の子向けのおもちゃが欲しいですねとか、もっと開催回数をふやしてほしいですという声など、置いておくことで、全く強制はなく、何となくふっとテーブルの上に置いておくんですが、帰り際に希望を書いたり、感想を書いたりしてくれます。こういうぼやき・つぶやき自由帳というのもつくりました。

子供用のいすもありますが、これもママカフェ用で購入したものです。お茶を楽しんでママカフェが終了した後も、そのまま残ってランチをしていく親子さんも大分多くなってきています。それから、右下にあるのがママカフェメニューというものです。単品だと、飲み物200円、デザート200円、でも、ママカフェセットにすると350円と50円安くなっています。そういうものです。

このようにママカフェを過ごしまして、11時20分ぐらいになりましたら、「そろそろママカフェ終了ですのでお片づけ一緒にお願いします」と声をかけます。そうすると、お母さんたちも協力的で、それから、ちっちゃな本当にやっと歩いているような子どもでも、散らばっているおもちゃを集めてくれたりします。小さい子が来ると本当におもちゃをなめ放題ですので、それを後で除菌クリーナーで１個１個拭くんですけれども、その作業も子どもはとても楽しそうにお手伝いをしてくれます。みんなで一緒に片づけをいたします。最後には、ボランティアさんにその日の様子を日誌に書いてもらっています。これがママカフェ一連の紹介のお話となります。

ママカフェとちょっと離れますけれども、私も同じ中原区民なんですが、地域の中でいろいろ今まで子育て支援をしてきました。こども文化センターの中で、月１回フリースペースで子育てふれあい広場的なものを８年ほど続けてきました。最近、こども文化センターでも、ふぁみぃゆという地域子育て支援センターをやっていて、週３回子どもを連れて

行けるということもあったり、いろんな状況がありまして、８年続けたそちらの広場のほうはちょっと今お休みをしているところです。そういう広場を開いたり、あとは、中原市民館での市民自主企画事業のほうに提案をしまして、年間多いときで３回ほど予定しましたけれども、親子一緒に楽しめるコンサートを開いたり。それから、レジデンスというマンションができたときに、やはり住民の方々の交流の場を設定するということで、幼児と小学校低学年の部を担当してほしいと企画会社のほうから連絡が入りまして、そこにも行ってちょっとイベントをお手伝いしたこともあるんですが、すごく小さいお子さんが住んでいるんだなということをそこで強く感じた次第です。あとは、家庭教育学級といいまして、子育てのことについて学べるような学習する場所も企画して進めたりもしたことがあります。

今までこのような活動をしてきて思うことを少しお話しさせていただきたいと思います。今、小さいお子さんを連れているお母さんたちというのは、先ほども言いましたけれども、すごく周りに気を使っているなという気がします。それから、情報がどんどん入ってくるがために、それで惑わされたり、不安になったり、迷ったりということがとても強いなと思います。私もめいがいて、今２歳の男の子を育てているんですけれども、もう早く早く幼稚園に入れないといけないんじゃないかと思っています。めいは働いていないんですけれども、自分と２人だけでこうして過ごしていることがもしかしたらいけないんじゃないか。要は、早く集団生活の中に入れないと、大きくなって幼稚園、小学校へ行って集団生活ができないんじゃないかというとても大きな不安に駆られています。こども文化センターで広場を開いたときもそうでした。まだ２歳にもなっていないのに、もう幼稚園のことを考えなくちゃとお話ししているお母さんが多いことにびっくりしました。でも、私は、めいにも言うんですけれども、やはり親子一緒にいて、毎日過ごす中で親の愛情をたっぷり受けて、その安定した精神状態の中で楽しいことを感じたり、またはいけないことを覚えたり、そういうことをすることで成長ができるわけだし、その安定した状況が保てていたら、幼稚園に行ってもちゃんと集団生活に適応していくのではないかなと思っています。そのように、気を使ったり、神経を使っているお母さんがとても多いなというふうに感じています。

今後、また子育て支援に取り組むに当たって私自身心の中に置いてあることがあります。まずは、親と子どもの心に添うこと。今、小さい子どもを持っているお母さんを見ますと、よちよち歩きとか急に走り出すようなお子さんなのに、細くて高いヒールを履いたりしているお母さんがいます。そんなので子どもが急に走り出したら追いかけられるのと心配にもなったりします。それから、携帯電話をずっと離さない人、子どもの顔を見てあげればいいのに、目を見てあげればいいのにと思うぐらいのお母さんももちろんいます。でも、批判をしても何もいいことは生まれないなといつも感じています。その人はその人なりに一生懸命なんだろうな。だから、その人の心に添う、その人はその人なりに一生懸

命なんだと理解をしてあげる。子どもも同じように、子どもなりにその心に添ってあげる、悟ってあげるといいますか、そういうのがとても大事だなと感じています。

やはりそういう目で見て、いろんな場面で接していると、だんだん信頼関係というものができてきます。ある程度の関係ができてこないと、こちらからのアドバイスも心の中に入りにくいんですね。全く見ず知らずの人に急に注意されても、やはり最初に拒否反応が出てしまうということも多いのかもしれません。ある程度の信頼関係ができたところでお話をしていくと気持ちに入りやすいなというふうに思っています。

それから、受け身で終わらない自立した子育てのほうに支援をしていく必要性があるのではないかなと思います。子育てサロンとか子育て広場とか、いろんなところで子どもを連れて参加できるものは本当に数多くできています。選択肢がいっぱいあるということは、子育てをしている親たちにとってすごくいいことなんですけれども、ただ、あそこに行けばこれがある、あそこに行ったらこれをしてもらえる、それだけで時間を過ごしていくのではなくて、そういうところにかかわりながら、やはり自分たちの足で子育てをしていける、地域の中でちゃんと自立した子育てになれるようなそういう働きかけだったりきっかけづくりが主催をしている側にも必要なのではないかなと思っております。例えば、一緒に活動に参加してもらうとか、また、お母さん同士で何か始めたいなという空気があったときには、見逃さずそこにフォローに入って、ある程度順調に動くまでだれかがついてあげるとか、そういう形の受け身だけで終わらない、自立した子育てに向けての支援がとても大事なのではないかなと思います。そういうことをしながら地域に住む人間同士がいい形でつながっていく、これが一番大事なことで、今後あっては困りますけれども、今回のような震災などがあったときに、日常、人間同士がつながっていたら、そういうときにこそ支え合ったりできるんじゃないかなと思っております。

すみません。ちょっと時間オーバーだったかもしれませんが、以上です。失礼いたしました。ありがとうございました。（拍手）

鈴木委員長　三星さん、ありがとうございました。後から皆様からまとめてご意見をいただきますけれども、何か心に残るメッセージがありましたね。

エ．中原区まちづくり推進委員会・公園井戸端会議プロジェクト

鈴木委員長　次なんですが、中原区まちづくり推進委員会・公園井戸端会議プロジェクトというのがございまして、村上昭彦さんに子供たちが生き生きと育って過ごせるような場づくりについての説明をしていただきたいと思います。資料３－１、３－２をごらんください。村上さんは、昔遊びなどを通じまして、子供たちや高齢者の方々が集まり、交流できる、いつも吉房さんがおっしゃっていますけれども、公園のあり方などを検討されているのを初めさまざまな地域活動をなさっておられます。

では、村上さん、よろしくお願いいたします。

村上　どうも初めまして、村上と申します。どうぞよろしくお願いいたします。今ご紹介いただきましたように、私はまちづくり推進委員会というところに属しておりまして、その中の公園井戸端会議というプロジェクト、企画の１つのまとめ役というか、代表者をやっております者です。

今日は資料を２枚だけ用意させていただいたんですけれども、順番が気持ちとしては逆で、３－２のほうが我々のこんな活動をしておりますよという内容を書いたものです。今ここでこれを一々説明するのが今回話を依頼されたことではないと思いますので、これはお持ち帰りになって、見ていただければ結構です。

３－１のほうです。こちらは、活動の中で我々がイベントの会場等に行きまして、参加されている方にアンケートを積極的にたくさんとるようにしているんです。それの中で集計したものがございまして、集計して終わりというのが大体のパターンなんですけれども、それではもったいないということで、１度集計しましたものを建設緑政局の緑政課さんと意見交換会をしまして、それをまとめまして、またイベントの会場に持っていって、アンケートを書いていただいた人の回答みたいな形のものを作ったものが３－１です。要するに、一種の成果物のような形のものです。

本日話をしようと思いますのは、大体大きく分けて４つの塊ぐらいになっていくと思うんです。公園井戸端会議って何をやっているのというあたりがこれからお話しすることです。あと、２つ目あたりに、イベント等で行ったら何を実際にやっているんだとか、あと、どんな基本方針でやっているんだというのを３番目にお話しさせていただいて、やりながら問題点、課題点がやっぱりいろいろ出てきておりまして、その辺のことを４番目に話して、時間がちょっと余りましたら未来形の話ができたらいいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

まず１番目のこちらの井戸端会議の活動ですけれども、先ほど申しましたように、まちづくり推進委員会の活動の１つでしかありません。その中で、経過としては大体５年ぐらい活動させていただいております。テーマは街区公園、要するに、町なかに小さい公園がありますね。場所によってはかなりすさんだ公園になっている場所とか、管理運営協議会というのがございまして、地元の方がきれいにしている公園もあるんですけれども、公園によってかなり温度差が激しい状態ですので、何とかならないかなと。そういうのが一番の項目の目的としてやっております。特に中原区は新規の公園がなかなか立ち上がらない、リニューアルもされない、よく聞く遊具の状況が壊れたままでなかなか改善されないとかいろいろな問題があるんですけれども、そういうふうなことで、少しでも一役買えたらなというのがもともとの活動のきっかけとなっております。

年間の予算は大体20万円ぐらいでやらせていただいております。これの中で特にアピールしたいのは、この20万円のうちの大体３分の２ぐらいは自主捻出ということで、行政さんからは３分の１程度しか支援はいただいておりません。行政さんからいただいているお

金は大体６万円から７万円ぐらい。あとは自分たちのほうで。このからくりはまた後ほどお話しします。

メンバーは、推進委員会の中で募りましたメンバー約10名程度です。本当に一生懸命やっていただいているのはそのうちのおおむね半分ぐらいで、あとの半分ぐらいの方は時折来たり、イベントのときに楽しげに来る、そういうような方です。実際イベントはそれだけでは回せませんので、推進委員会の方ではなくて、仲間とか、先ほどのママカフェのほうでも同じように、現場で積極的に参加される方がいると、一本釣りで、ちょっと今度また来てみないみたいな形で、サポーターと呼んでいる仲間をつくっておりまして、そちらも大体10名ぐらい。ですから、世帯としては一応20名ぐらいの人数の中でやっております。

実態としましては、いろいろやっている中で、イベントに参加するのは年間８回から10回ぐらい。例えば、区民祭とか、商店街のイベントとか、あと、過去には小学校さんの授業の支援という形で、やはり昔遊びということで要請をいただいて、たしか２カ所過去に行っていると思います。原則的に、要請があるところには、まずはとりあえず１度行きましょうと。でも、必ず２度目行くとは限らないというのが、ちょっと勝手気ままな形なんですけれども、要するに、ギブ・アンド・テイクがとれるところにはどんどん参加しましょうと。また、商店街さんのほうでも中小のところでは厳しいところがございますので、いろいろ協力（商店街側で）できないところもありますけれども、そういう意図がわかればどんどん協力しましょうという形で参加するようにしております。あと、町内会のイベントなんかも行ったこともございました。その辺のことは、また資料３－２を見ていただければありがたいと思います。

それでは、２番目に行きます。実際にイベントの会場で何をやっているのかというと、昔遊びということで、幾つかのものはあるんですけれども、それは資料を見ていただければメニューはあるんですけれども、例えば、これはけん玉ですね。多分皆さんご存じと思います。上手な方はいらっしゃると思いますけれども、ちょっとやってみましょうか。よいしょ。――ちょっと緊張していますね。よっこらしょ、あっ、というような感じでやっています。見なかったことにしてくださいというのはうそなんですけれども、何でこんなことをやったかというと、イベントの会場でお子さんの今みたいな行為をよく見ます。初めてやった人は大体こういう形になりますね。そうすると、知らない方が、だめだよそんなやり方じゃというような形でささっと近づいてまいります。「けん玉というのはね」「持ち方からだめなんだよ」「ひざを使って」とかというような会話が始まります。そういうときに、私は遠くのほうでわなにかかったなというふうにちょっとつぶやくんです。要するに、知らない者同士を結びつける１つの道具。今はけん玉で話しましたけれども、これにまたベーゴマとか竹トンボとかいろいろあるんですけれども、そういうようなもの。人をつなぎ合わせるというんですか、あとは、技術力というか、練習しないとなかなかでき

ないものもあるんですけれども、そういうもののアイテムとして考えています。だから、仲間には反対されますけれども、こういう場所でそれがテレビゲームであっても個人的にはいいんじゃないかぐらいには思っております。だけれども、やはりこういう余りに単純な遊びなので、実は奥がすごく深いんですね。これで実際競技をやっている方々もいらっしゃるぐらいですから、そういうことを頭に入れながらやっております。

大体やっていることは、大きく分けて項目としては５つです。今言いました昔遊びの中で、これは無料でもちろんやっていただいているんですけれども、参加型と呼んでいます。これのほかには、例えば、ベーゴマですとかおはじきとかめんことか竹馬、諸々あるんですけれども、私は個人的には、我々は教えてと言われれば教えますけれども、ほとんどそこの場に来られた方に自由にやっていただく。個人的には放置プレーとかと言っておりますけれども、きれいな言葉で言えば放任プレー、どちらかと言えば放任遊びですかね。これがまず１つ目です。

２つ目の昔遊びの中で、手作り型というのを用意しておりまして、作る事の喜びを味わってもらおうと。それは、先ほど言いました竹トンボなんかがその１つです。あとは風車、こちらを作ってもらったりしております。今日1つ持ってきたんですけれども、風車もよくあるものではなくて、自分たちで設計したものがございまして、こういうような形です。こういうのを作ってもらっています。これは子供にハサミを持たせて切って作ってもらっているんですけれども、実際、小学生の低学年ぐらいですとなかなかうまくできない子とかもいるんですが、これの重要なのは、きれいな上手なものを作ってもらうということではなくて、最初から最後まで子供に作ってもらいたいと。自分が作ったものが、完成形ができることの喜びというのは子供もものすごく持っていますので、それを重要視して、できるだけ親には手出しさせたくはないんですけれども、最近の親はすぐ手を出してまいりますので、それが一番の悩みなんです。これは手作り型、昔遊びのその２です。

あとは、今回の話とはちょっとずれるんですけれども、お茶遊びと称して、抹茶とコーヒーをお出ししたりしております。ちなみに、これとか竹トンボに関しては参加費100円ということで有料にしております。こういうことの金額とか、あと、商店街さんのほうに伺ったときに経費等で援助いただいたお金とかが先ほど申しました入ってくるお金の根源になります。そういうことを積み重ねて年間十数万円、それぐらいの金額が入ってきて、また運営活動費に回していくというようなことをしております。

それと、話が途中になりましたお茶遊びですけれども、抹茶とかコーヒー、煎茶とかその手のものをお出ししたりしているんですけれども、これも有料でやっております。これは一応意図がありまして、自動販売機で売られているペットボトルのお茶はお茶ではないという視点を私は持っておりますので、できたら本物のお茶、急須で入れるのが本当のお茶だよというのを知らない世代が実際増えているので、そういうものの啓蒙まではなかなかいかないんですけれども、そういう視点でやっております。これが３つ目です。

４つ目は、最近始めました。仲間の中で山野草を育てている方がいらっしゃいまして、それも尋常な数ではないので、これもちょっと販売させてもらったりしております。つい最近、丸子の桜まつりでこれを販売しようと思いましたら桜まつりが中止になりまして、さて生もので困ったと。実は先週の土曜日に、とある商店街の店先でこれを販売させてくださいとコネを作ってやりまして、これはすべて義援金という形でやったんですけれども、何と３時間ぐらいで３万円近い売り上げというとてもありがたいことで、早速日本赤十字社さんに送金させてもらっていますけれども、今後もできたらそんな活動もしていきたいと思っております。

あとは、５つ目の先ほどの添付資料の中の３－１のアンケートです。こちらを継続的にやって、できれば市のほうともお話をさせていただければ、なかなか話は難しいんですけれども、個別では動いたり、複数の声があると物事が動くようなんですけれども、これがなかなか思うようにいかないというのが現状のような感覚なんです。一応この５つぐらいが実際現場でやっていることです。

私たちの基本方針です。紹介の中で、今日のテーマでもあるんですけれども、子供向けの企画とは私どもは一切思っていないです。大人も子供も一緒。どちらかというと、できないものをちょっとチャレンジしてみようじゃないかというのをテーマに持っております。どちらかというと、お子さんのほうが対応能力が高いので、実際、現場でやっていると、親と子でせえので始めたらどっちが早く上手になるかといったら、間違いなく子供さんのほうがすぐに上手にできるようになります。それぐらい子供にはすごく能力があるということなんだと思うんです。

特に注意しているのは、マニュアルは作っていないんです。例えば、けん玉でもそうですけれども、けん玉をうまくなりたいというふうに我々運営サイドの人間は思っておりません。要するに、自分がマニュアルをつくるということを重要視しています。人によってマニュアルの製作の仕方は当然違ってきます。自分でどういうふうな成功論を作っていくかということを、自分で作ることにすごく重要性があるので、これをこういうふうにやればちゃんとできるんだよと正論はあるんですけれども、答えは決して１つではないので、それのヒントというか、大それた言い方ですけれども、自分の力を磨くみたいな形のことをもって、マニュアルは絶対作らない。だから、隣の人と隣の人が違う教え方をしたりします。ですから、ちょっと教え方が悪い人だとはずれも引くことはあるんですけれども、それも人生と思っていただいております。

あと、我々がやっていることは、学校の教育現場ではないので、全員ができるということは目指していません。これはちょっと怒られてしまうかもしれませんけれども、どうしてもできないことというのはあると思います。それをあきらめるのではないんですけれども、考え方の中に、では、ほかのところで活躍できる場所を見つけようじゃないかという考え方もあるのではないかというのが私たちの考えです。

先ほどの、お金をしっかり取る。これも活動の方針の中で大きく掲げています。なぜかというと、まず、お金を取ることによって、作るほうが、作る側が物を大切にしてくれる。あと、我々の教える側が、お金を払ってもらっているんだから、ちゃらんぽらんなものは教えられないよという意識もそこでわいてきます。要するに、お互いにメリットが大きいということですね。あとは、失敗することをどんどん次につなげられればみたいなことも考えております。まだ幾つかあるんですけれども、この辺は飛ばして、４番目に行きます。

今、我々がそういう現場に行ったときに抱えている問題としては、先ほど少し話しましたけれども、子供の親が、子供とイベント会場でいろいろやっていると、すぐに手を出してくるんですね。例えば、ちょっと竹トンボがうまく削れないというと、かしてごらんというふうにして、こうやるんだよ。今の親の悪い癖なんですけれども、今、子供は皆さんいい子ですから、やめてくれよとは決して言わない。要するに、本当は一から十まで、へたくそでも飛ばなくてもいいから作ってほしいというのがこちらの願いなんですけれども、そこで我々はやめてくださいとはなかなか言えないので、そういう親御さんにはアンケート用紙を渡してちょっと書いてもらったりして、しばらく時間稼ぎ等はするんですけれども、アンケート用紙は３分もあれば書けてしまいますから、それが終わるとまたすぐ参加してくるというような形なので、何かの形で線が引ければいいなと常々思っているんです。これが一番の難しいテーマなんです。

あとは、今我々がやっているのは、イベント会場でやっていますと、一応私たちはいい人だというふうに思われていますので、知らないお子さんと例えば私。お話ししたり、こうやってやるんだよ、ちょっと来てごらんというふうに言うと、場がそれを認めてくれますので、自由に知らない者同士が――もちろん親御さんも安心してお子さんをそこに預けることはしていただけるんですけれども、例えば、これがどこかの全く知らない小さな公園で知らないおじさんと子供がやったら、最近の子供はしっかり教え込まれていますので、知らない大人とは話をするな、ついていくな。ですから、この形態は、残念ながらイベント会場という非日常の空間で成り立っているということがあるんです。ですから、本当はこれを公園とかで自発的にやっていけたらいいなとは思うんですけれども、そこへの道のりというのは、例えば、30年前、40年前だったら普通にやっていたことなんですけれども、これはかなりハードルが高い。地域的にやっている、学校単位でやっているような形態ですと成り立つんですけれども、全く見ず知らず同士がいきなりやると間違いなくうまくいかないと自分では感じていますが、本来はそれのほうが正しい関係性なんだと個人的には思っております。

あとは、運営サイドのほうの人間がどうしてもルーチンワークになってしまって、いろいろやっているんですけれども、新しいことに挑戦しようとなかなかしなくなってしまう。参加している高齢者が結構高齢の方が多いので、新しいことをどんどんやろうという

形にはならないんですけれども、それも打開しなければいけないなというのが１つ。これは多分ほかの活動をされている団体の方も恐らく同じなんだと思うんですけれども、いかにルーチンワークを打開するかというのが最近のテーマになっております。

あとは、運営側でなくて、１つ言い忘れました。最近のマンションの形態なんかで住まわれている方は特にそうなんですけれども、これは私、半径６メートルの幸せと言っているんです。要するに、自分の住まいの周りだけ平和であればいいと、そういうような発想の方がおられます。もちろん隣の方にはあいさつぐらいはするんですけれども、親が隣の子供をしかりつけるというシーンは全くないので、これも１つの壁となっていると今現状で思っております。やりたいことと実際はかなりずれがあるなと、ここのところ痛感していますけれども、引き合いもありますし、楽しげにやって、できないことができてよかった。あと、中には参加してくれる小学生が今度イベントのお手伝いに来てくれるなんていうふだんでは考えられないようなことも発生していますので、もうしばらくは、この形態をいろいろ形を変え品をかえ続けていければなというふうに思っております。

時間が結構過ぎてしまっていますので、これまでにしますけれども、本当は５番目の話として、中原区内では公園が実際のところ異常に少ないんですね。前衛的な公園もかなり少ないです。発想としては、プレーパークといいまして、自由な発想で、穴を掘ろうが、木に登って木からロープを張りめぐらしても怒られない公園という発想のものもございます。近隣の横浜市とか東京都もそういうのがございます。川崎市には、部分的には実験的に子ども夢パークとか、あと、臨海地域に１カ所たしかあったと思います。あと夢見ヶ崎、あそこは横浜か――要するに、すごい少数であるんです。そういうようなこととか、とにかく紋切り型の１つの公園ばかりでしか存在していませんので、子供目線の公園ばかりです。ですから、大人の鑑賞にたえられる公園なんていうのもあってもいいと思うんです。我々、一応税金を払っている人間ですので。必ず子供をだしにしてやるというやり方は、ちょっとこれからはいかんのではないかなと個人的に思っております。

好き勝手なことを言って申しわけございませんでした。以上で終わります。（拍手）

鈴木委員長　村上さん、ありがとうございました。もう１度拍手をお願いいたします。（拍手）

それでは、お二方、三星とく子さんと村上昭彦さんに事例発表していただきましたけれども、ここで皆様、お二方にご質問があればと思います。三星とく子さんは、とにかく参加者、若いお母さんたちの心に添うようにしてあげたい。それから、受け身だけではなく、みずから活動できるような支援をしてきたい。村上さんに関しましては、とにかく昔遊びを通じて、子供たちがみずからいろんなことを発見して体験していけるように見守った活動をしていっているということで、公園が足りないとか課題もたくさんあるわけですが、小学生が手伝ってくれるようなことにまでなったので、これからも活動を楽しみながら続けていきたいというようなお二方のお話でございました。

委員の皆様に何かお二方にご質問があれば承りたいと思いますが、いかがでしょうか。では、芳賀委員どうぞ。

芳賀委員　子育てのほうでちょっとお尋ねしたいんですけれども、レストランを利用されているということになると、子供が遊んだ後というのはかなりいろんなにおいがこもるようなことがあろうかと思うんですけれども、その辺の対策は苦労されていると思うし、当然そうすると、おむつがえとか授乳とかという問題があると思うので、その辺はどのようにしてクリアしているんでしょうか。

三星　ちょっと説明不足で申しわけございません。おむつをかえるときとか授乳のときには違う部屋にご案内をしております。ミュージアムの中に授乳室というのがありまして、そこでおむつをかえたり、おっぱいをあげたりとかしてもらっていますので、そういう意味では、においですとかが気になるようなことは全くありません。

芳賀委員　ありがとうございました。

鈴木委員長　ほかにございませんでしょうか。松原委員、どうぞ。

松原委員　最近、若いお母さんだけではなく、若いお父さんが子育てに参加しております。そういう対応はどうなさっていますか。

三星　ママカフェのほうにもやはりお父さんがお子さんを連れて入りにくそうに入ってきます。ですから、社会的に本当にパパの子育てというのがもう浸透しているのかなと思うんですけれども、実は男の方というのはお子さんを連れてそういう場に入るときにはちょっと入りにくそうな感じがありますので、どうしようかなと思っているようなときにはこちらから出ていって、どうぞどうぞ、気楽にどうぞということでお誘いをしたりしております。よろしいでしょうか。

松原委員　はい。

鈴木委員長　ありがとうございました。ほかにございますか。青木委員、どうぞ。

青木委員　ママカフェのほうは、どちらかというと母親のストレス解消とかそういう感じなんですけれども、ポイントはボランティアさんだと思うんです。ボランティアさんは何人ぐらいいて、どういう人がボランティアになっているのか。それで、参加している子供さんというのは結構大きい、十分歩けるそういうお子さんで、我々がやっているのはゼロ歳から１歳半とか３歳とかとまだちっちゃい方なんですけれども、大きなお子さんを持つ母親への指導といいますか、ボランティアさんについてお聞きしたいと思います。

三星　では、まずボランティアさんについてですけれども、今８名の人が登録をしてくれております。第１木曜日と第３木曜日に行っておりますので、大体最低二、三名はいるように、ですから、第１木曜日はこの方たちの担当、第３のほうはこの方たちというふうに一応分けて行っております。ただ、急な用事でボランティアさんが来られないようなときもありますので、そういうときには職員のほうで対応したりというふうにしております。

どういう方たちがボランティアさんを受けてくださっているかというのは、本当に立ち

上げということでしたので、時間的にも大分タイトで大変だったものですから、私のほうで、中原区内で、例えば市民館ですとかいろんなところで子育て支援の活動をしている方に直接ご連絡をとらせていただいて、ご協力をいただきました。ただ、ミュージアムの中には、いろんな小学生の見学サポーターだったり、それから、イベントのサポーターだったりで、ボランティアが合計で50名以上おりますので、今後は、人数的に不足だなというときにはそういうほかのボランティアの方にもお声かけするというような形にもなっていくかなと思っております。

それから、子供の年齢ですけれども、本当に首が据わったかなというような赤ちゃんから、幼稚園に行っているというか、年齢的に言いましたら３歳、４歳まで来ております。ただ、遊べるスペースは限りがありますので、もっともっと外へ行って、等々力緑地公園の中ですので、外で走り回って遊ばないとエネルギーが発散できないような年齢になると自然に来なくなりますね。まだまだ赤ちゃん、初めてのお子さんを出産されて、１つ１つが初めてで不安で迷っているというお母さんたちが一番そういう場を求めているなという感じがしております。よろしいでしょうか。

青木委員　はい。

鈴木委員長　では、藤嶋委員どうぞ。

藤嶋委員　井戸端のほうなんですが、必ず親がついてくるわけですか、中にはやっぱり親が来られない子供たちが多いと思うんですね。そういう子たちに対してはどういうようなことか。また、100円取るというんですが、そういうのを持ってこられない子たちもいるんじゃないかなと思いますが、親の無関心さというんですか、働いていたり、そういう子供たちへの対応が大事ではないかなと思いますが、いかがでしょうか。

村上　ありがとうございます。イベントの会場等には、ほぼ９割以上はやはり親子でいらっしゃる方々がほとんどです。商店街さんなんかでやるイベントに関してもほとんどがやっぱり親子のパターンが多いんですけれども、確かにご指摘のとおり、お子さんだけで参加される方がおられます。その中で、先ほど有料と言いましたのが、作る系というところで、当然、ほかの遊びに関してはお金は取っておりません。とはいいながら、やはり見ていてやりたいと思うこともありますので、隠れてやらせてあげたりはしております。実際それをどこまでやればいいのかというのは、例えば、お金を払っている子供のわきでそれをやり出すとまたいろいろ、問題というわけではないんですけれども、えこひいきみたいなことだというふうに発想する子供もやっぱりいますので、それは場所をわきまえてやるようにはしています。そのようなさじかげんは多少使って進めてはおります。ですから、すべて皆さん同じ土俵で平等にというのは、逆にできないというか、世の中は実際そういう部分もありますので、そういう形で上手に使い分けてやっているというのが現状です。こんな形でよろしいでしょうか。

鈴木委員長　よろしいですか、藤嶋委員。

藤嶋委員　はい。
鈴木委員長　大下委員、どうぞ。
大下委員　いろいろとありがとうございます。私はちょうど子育て世代というところで参加させていただいております。週休２日制が定着されて、本当に地域の方たちがいろんな取り組みで私たちを支援していただいていることに日ごろより感謝しております。
　お２人にそれぞれ質問なんですが、まず、ママカフェさんのほうの開催の案内はどのような方法をとっていらっしゃいますか。
三星　広報ということですね。私のほうではまず、行政の機関ですので、集配でいろんな施設に送ったりとか、あとは身近なところで、やはり来る方というのはそんなに遠くからは来ませんので、すぐそばにあるこども文化センターに直接お持ちしたり、あとは、西丸子幼稚園跡のつきやまサロンがありますね。あちらにちょっと届けたりとか。この辺にもできるだけ細かく、子育てサロンをしているような、子供さんを連れて集まっているようなところに直接お届けをしたりというふうな形はとっております。あとは、松本さんも子育て支援の活動をいろいろしていますので、ボランティアで来てもらったときには帰りにごっそりと持っていってもらったりとか、広報にもご協力をしていただいております。よろしいでしょうか。
大下委員　ありがとうございます。
　では、もう１つの井戸端会議さんのほうなんですが、活動の拠点というか、中原区といえども広いので、私はお会いしたことがなかったので、どちらでこういったことを開催されているのかなとちょっと興味を持ちまして。
村上　開催というのは、イベントとして参加しているかとか、そういうお話ですか。
大下委員　そうです。
村上　商店街系のイベントが割と多いですので、例えば、近々で言いますと、５月５日にブレーメンさんのほうで子供の日にちなんだ形でちょっとイベントを組まれているので、そこに参加要請がありましたので、そういうところに行ったりですとか、新城の商店街さんですとか、お話しした春に開催されます桜まつり、これは日医大のグラウンドで開催されているものですけれども、そういうところですとか、あと、市民活動の集いといいまして、これは夏場にかわさき市民活動センターの中でやられているものなんですけれども、割とそういう小さいところが主です。残念ながら、我々だけで企画を運営して人を寄せ集めるほどの――前はやろうと思ったんですけれども、それほどの引きの強いものではないです。何かとの相乗りでやって、その中で、おお、おもしろいぞというふうな形で参加してきてのめり込んでくる方が多いというような形なので、原則的には、もちろん要請があればどこでも行きますけれども、目立った形でやるというような感覚では残念ながらないので、あとは区民祭とかそういうところでちょっとのぞいていただければ雰囲気がつかめるのではなかろうかと思います。よろしいでしょうか。

大下委員　ありがとうございました。

（２）全体意見交換

鈴木委員長　ありがとうございました。

まだ質問がたくさんあると思いますが、これから審議していきたいと思っております。地域における子育て応援体制づくりということで、まず最初に、地域の今のお二方の例もありますけれども、地域の子育てのあり方について現状どういうふうに考えているか。これは皆様のご自由な意見で結構でございますので、ご意見がありましたら、お願いいたします。ちょっと漠然としているんですけれども、子育てのあり方についてどのように考えるか。何が正しいかとか正しくないかという意見ではなく、ご自身がこういうような子育ての応援体制があるといいなというご意見でも結構ですので、ございましたら挙手願えればと思いますが、いかがでしょうか。反町委員、お願いします。

反町委員　私は子供はまだいないんですが、ちょうど私の同世代の友人なんかもどんどん子供を産んで子育てしていて、同時に、私も去年たまたま中原区の子育て関係の事業の親子講座という、こども文化センターでやらせていただいた事業なんですが、それをお手伝いさせていただいて、まさに子育て世代のお子さん、特にそのときは２・３歳児のお子さんを対象にしたんですが、お母さんたちが安心して参加できるような子育ての事業、イベントみたいなものをすごく必要とされているなというのを感じたところです。そのときも地域のこども文化センターのあっちこっちを、中原区内にもたくさんあるので、ツアーみたいな形で回らせていただいて、コンサートだったり、手づくり作品だったり、一緒に子供と何か作品をつくったりですとかそういうことをやらせていただいたんですが、すごく喜ばれて。ただ、需要に対しての開催の回数が全然追いつかないのかなというか、もっともっとやってくださいということをすごく言われたんですね。今回ママカフェさんのことも初めてお伺いして、すばらしいなと思って、でも、このペースでずっと継続的にやっていかれるということはすごく大変なのかなと思ったりもしました。

そんな中で、とにかく１つ私が考えるのは、特に子育て世代がたくさん住まわれていて、きっとこれからもまだまだ住まわれる方が多い中原区ですから、とにかくこういう事業をもっとたくさん数をふやして、中原区の資源を生かすような形でたくさんやっていければいいのかなと思います。

鈴木委員長　まだパパになっていない反町委員からの希望的な意見でしたね。

反町委員　早くなりたいと思っています。

鈴木委員長　ちょっと漠然としていて、意見もあったんですが、実は何人かの委員から資料をいただいています。この中で、子育ての応援に向けて実際この活動をされているという資料を松原委員から出していただいていますけれども、松原委員、それについて、出された資料に基づきまして説明をお願いしたいんですが。

松原委員　中原区には５つの地区社会福祉協議会というのがございます。私どもの社会福祉協議会は大戸地区社会福祉協議会と言います。20の町会あるいは自治会が子育てに取り組んでおります。昨年どのぐらいのお母さんたちが参加したかと申しますと、昨年は2027組のお母さんたちが参加しております。スタッフが600名です。この2027名というのは、お子さん１人だけではなく、２人、３人という方たちもおります。こういう中で、来年になりますと、ちょうど子育てサロンを始めてから10年になります。ママさんたちがママ友ができ、非常に広がりを見せております。ただ、設定の場所に料金の差があったり、財政的に非常に難しいものがございますけれども、川崎市からの支援、あるいは大戸社会福祉協議会からの支援、これによって非常に活動的に現在やっております。

まず、年間のスケジュールを決めます。年間のスケジュールを決めた中で、例えば、夏休みに入った中学生のボランティアの人数、中学生がどのようにママさんたちと、子供たちと一緒にボランティアをやっていくかということのスケジュールをまず決めます。その次に、各種団体の参加のスケジュールも決めます。それと、子育てスタッフの研修会もやります。12月になりますとサンタクロースのスタッフの研修の参加とか、そういう年間のスケジュールを立てた中で、サロンとして、４カ所でサロンを開催しております。非常に多くの方が参加しています。昨年についてはインフルエンザの問題がございまして、やむなく中止をいたしました。完全防御できるんだからやってくださいよというようなお手紙あるいは電話もいただきましたけれども、やはり恐い。インフルエンザについての問題で２カ月間停止をしました。今年は地震によることで２回ほど休みましたけれども、０歳児から３歳児までのお子さん、３歳児のお子さんが終わってしまうと、３歳、４歳の子の子育てサロンはないんですかというような要望が数多く出ております。ただ、お母さんたちといろいろ話していきますと、その場所にサロンに来て一緒にいろんなことを学ぶということは非常に楽しいんですが、おうちへ帰ると、やはりおもちゃ、あるいはテレビ専門にお子さんをやってしまうということです。

私は絶えず言うんですが、お子さんとともかくスキンシップをいっぱい持ってくれと、そういう子は必ずお母さんがいなくても、自分たちで、お子さん同士でやっていくんだと、子供に愛情をいっぱいかけてほしいということをよく話します。愛情の反対は無関心であるということで、お母さんたちがえっなんて言っている方がおいでになりますけれども、そういう状況の中で、大戸の子育てサロンは、中原の中でも、中原で住みよい子育てのまちづくりに大きく貢献しているんじゃなかろうかと思っております。

以上です。

鈴木委員長　ありがとうございました。今、松原委員の資料を読んで、『近所のわたしにできる子育ての手助けってなんだろう』という資料のテーマが、今これから我々が区民会議としてどのような応援体制をつくっていけばいいかということにちょっと沿っているなということで、先にご説明していただきました。

我々区民会議として、どこを中心に審議していけばいいのかなというところで、前回の「安全・安心のきずなづくりに向けて」も大変広くて難しかったんですが、今回の子育て支援もまた大変難しいテーマでもございます。今、松原委員から意見をいただきましたけれども、ほかの委員の皆様のご意見がありましたら、お願いします。では、吉房委員お願いいたします。

吉房委員　自転車のマナーアップ、それと子育て、これは永遠のテーマなんだけれども、私がこれから言うことは、子育てについて、安全について一本に絞っていけば何とかなるんじゃないかということをちょっと皆さんに提案したい。１つの案ですが、今回の３・11の東日本の大地震がありまして、これは、関東大震災がありましてから87年目、阪神・淡路大震災から16年目、その間、川崎、この辺は平穏にやってきたわけです。前回の３月11日に大きな地震がありまして、これでみんな目が覚めたんじゃないかと思うんです。

ところが、１つは、今まで安全安心まちづくりというテーマでやってきたんですが、なかなかこれは奥が深くて、どれに絞っていいかわからない。ですから、今回私は、子育てのほうに安全についての提案をしたい。今、子育てはいろいろな場所でやっているんです。学校、また会館、またコート、いろいろなところで子育てをやっています。その中で、子育てについてお母さんと子供さんがもちろん来ますね。これについて、今まではそれをずっとやっていたんですが、いざあのような地震があった場合、子育てをやっているときにどういうふうに誘導して安全に避難ができるか、できないか。そういう点もこの会で検討してやっていって、これっていうのがあれば、今まで安全安心まちづくりは奥が深くてなかなか絞れなかったけれども、この１点、子育てをやっている最中にあのような地震があった場合、どういう対応をして、どういう避難をして、どうやればみんな安全になるかというようなことを１つ提案していきたい。そのように思っております。

もう１つは、これは抜きにして、今、保育士さんになる人が多いんですよ。ということは、中原は今非常に人口がふえてきまして、子供さんがふえます。今、保育士を勉強して保育士さんに将来なりたいという人が結構おります。こういう学校に行っている保育士さんを目指している人に子育ての中に一緒に入ってもらって実践してもらって、それでライセンスを取って世の中に出ていく。そういうふうにやれば、今、松本さんなんかも一生懸命やっておりまして、その中にやはりリーダー的な存在が結構いなければ、子育てはなかなかやっていかれない。今、松本さんは長くやっていて大変だと思うんですが、やはり今言った子育ての保育士さんの卵、まだライセンスを取っていないそういう方を呼び込んで一緒にやっていけば、その人たちの１つの実践になれば、ライセンスの取り方についてもある程度楽になっていくんじゃないかと考えております。

もう１つは、実は、お母さん方が悩んでいる子供さんを連れてきて、悩んでいることをお互いに親御さんたち、お母さん同士でいろんなことを話しているんですね。悩み事ですね。実はいろんな悩み事、そういう悩み事をカウンセラーする人をその中に入れて、お母

さんにもそういう悩みを打ち明けてもらって、子供さんと一緒に子育てをやりながらそういうカウンセラーを受けてやっていって、そのお母さんが私もカウンセラーをやってみたいというようなことになれば、またそこの子育てをやりながらいろいろなお母さんが集まったときにそういうカウンセラーをやれば、なお一層向上する子育ての場所になるんじゃないかというようなことを私は思っております。

鈴木委員長　ありがとうございました。地域の子育てのあり方についてということで、前回からの引き継ぎになりますけれども、子育て中の安全についてどうするか、それから保育士さんの問題、それからカウンセリングということですね。先ほどのお話ではないですけれども、三星さんあたりがカウンセラーの役目もしているのではないかなと考えています。

ちょうど中原区で、この地域でどういう場所がそういう子供の子育ての場所になるのかというようなことで、今たまたま３・11の話が出ましたが、先ほど区長さんのお話もありましたが、とどろきアリーナに今福島県から避難されている方が100人以上いらっしゃるということで、それについての資料を板倉委員が出してくれておりますので、板倉委員、いかがでしょうか。それについてのご意見、そして、どういうふうにこの中原区民会議として取り組んでいくかということで意見をいただいてよろしいですか。――先に青木委員、どうぞ。

青木委員　済みません。先に私は、地域の子育て支援とその効果について。私は、民生委員・児童委員として、また社会福祉協議会の一員ということで、子育て支援には長らく携わっているんですけれども、子育て支援は、私の立場としては、子育てサロンとあいさつ運動、こういうふうに考えています。先ほど松原会長がおっしゃいましたように、子育てサロンは平成15年４月に、中原区役所を中心に中原区子育て支援推進実行委員会が立ち上げました。大戸地区はそれ以前にできて、その他の地区はそれに合わせて、それぞれ子育て支援推進委員会というのが設置されています。

私ども丸子地区は、社会福祉協議会、民生委員協議会合同で丸子地区子育て支援推進委員会を創設しまして、平成17年９月に第１回の子育てサロンを開催しました。それから８年目に入りまして、現在はこんにちは赤ちゃん訪問員制度とセットで子育てサロンを開催しています。大変盛況でございまして、月平均60から70組ぐらい参加しています。中原区役所の応援をいただいて、特に上丸子小学校の総合学習、「命の授業」に協力して、平成19年から４回小学校において開催しています。今年も６月10日に５回目を開催いたします。また、西丸子小学校につきましても、先日、校長と話し合いがつきまして、今年初めて10月に小杉地区と合同で西丸子小学校で子育てサロンを開催する予定です。子供を抱くというのは、普通自分に子供ができてからですけれども、それを小学生のときに抱くということですから、小学生は本当に感動します。また、８月には中学生が子育てサロンに参加します。一方、あいさつ運動は、中原区児童委員活動強化推進委員会の実践活動としま

して、平成17年10月から私ども地元の西丸子小学校と上丸子小学校において、毎週月曜日朝８時から８時半まで校門前で、両校の校長先生を交えてあいさつ運動を開始いたしました。現在６年目に入っております。なお、平成19年６月からは、食育として、早寝早起き朝御飯運動を横断幕を上げて実施しております。

これら子育てサロンとあいさつ運動を初めとする中原区における子育て支援の効果と言われておりますけれども、去る２月16日開催の中原区要保護児童対策協議会におきまして情報提供がありました。それによりますと、現在、川崎市内では児童虐待相談・通告件数が増加しています。その中で、中原区は市内で人口最大23万人、さらに人口がふえているにもかかわらず、児童虐待減少に転じたということです。これは、市民・こども局、こども家庭センターの担当者の説明では、中原区は子育て支援の効果だと、こういうふうにお話がありました。この話を聞きまして、本当に我々が今まで努力してきたことがやっと実ったなということで、まさに桃栗三年柿八年、こういう思いでございます。

今後は、さらに児童虐待を減少させる、あるいは、子供の非行や犯罪を抑止するために子供の健全育成に力を注ぎたいと考えています。具体的には、丸子地区ではこの10月を目途に、地区社会福祉協議会と地区民生委員児童委員協議会の会長連名で福祉協力員制度というのをスタートさせる考えでございます。福祉協力員には、民生委員・児童委員との役割分担で、高齢者のいわゆる見守りを担当していただきまして、民生委員・児童委員は子供にさらに重点を置いて活動してもらうというものです。この福祉協力員制度について、中原区社会福祉協議会のあり方に関する検討委員会の意見具申としても、この制度を導入することでよろしいということで、区の社会福祉協議会のほうでも提案しております。環境的にもその担い手とされる団塊の世代が地域に戻ってくることが期待できますので、タイミングとしてもよいんじゃないかと思います。児童虐待が減少に転じた中原区をさらに安全で安心な明るい住みよい町とするために、この地域における子育て応援体制を構築していきたいと考えています。

鈴木委員長　ありがとうございました。先ほどの松原委員もそうですし、今の青木委員もそうですけれども、例えば社会福祉協議会にしても、それから地域にしても、丸子地区のそういう既存の活動でそれぞれがいろいろと活動されているという実践の報告でございましたけれども、それでは、この区民会議としては一体どうなんだろう、どのようなことを中心にやっていけばいいのかなと思います。吉房委員の意見もそうでしたし、既存の活動は既にもうそれぞれ皆さんやっているんだよというような今のお話でしたね。

それで先ほどの話に戻りますけれども、今、そういう既存でそれぞれがやっているんだけれども、では、実際今、福島から被災された方が来ているところで、区民会議の委員として何かかかわっていらっしゃるということで、今の吉房委員の意見にもつながると思うんですが、板倉委員の資料に基づきまして、簡単にご説明をお願いしたいと思います。

板倉委員　話がちょっと変わってしまって申しわけないんですが、今回の地震、津波、そ

れから困ったことに原発という、いつ終息するかわからないこういう状態の中で、現在とどろきアリーナに被災者の方を受け入れているわけです。その構成を３－１の資料につけてございます。４月18日現在、106人の方、それから、０歳から10歳までで13人、こういうような方々が現在アリーナに参っております。この間、皆さんがそれぞれ所属する団体で支援活動は十分行ってきたものと思っております。特に町内会の方々がもちつきをやったり、社会福祉協議会の方々が炊き出しのようなことをやっていただく。さらには、まちづくりの中で竹内さんが子供たちの遊びを支援してもらうというようなことで、いろいろなことを皆さんにやっていただいているんですが、今まで区民会議としては防災をやってまいりました。それから、子育て支援、世代間交流と、何かつながるようなものが今回のアリーナの被災者の方々とあるのではないかなという感じがしております。

こういう流れの中で、区民会議として何かやれることはないかということを考えてはどうかと。特にだんだんと熱が冷めてくると、周りの各団体にやっていただけるのがだんだん減ってくるんじゃないかと思うんですね。この辺のところを何か区民会議でカバーしてはどうだろうか。ただし、被災者の皆さんのニーズもありますし、それぞれ支援するタイミングもあるでしょうし、また、押しつけがましいことをやるのもちょっと問題かなと思いますので、その辺を配慮しながら区民会議で何かできないかなということをちょっと検討していただけたらと思います。

以上です。

鈴木委員長　ありがとうございます。そういうご意見はとても貴重だと思います。既存の団体が、例えば社会福祉協議会でも団体としてはアリーナに行けば受け入れていただける、ただ個人で行ってもかえってご迷惑ではないかというようなご意見もあって、皆さんもいろいろ考えていらっしゃるのではないかなと思います。

杉野委員からも、参考資料４として社会福祉協議会の活動をいただいていますので、簡単に説明をお願いできますか。

杉野委員　僕も、正直言いまして今初めてこれを読むので、資料を今いただいて読んでいたところなんですが、要は、たまたま小杉地区社会福祉協議会の地域にとどろきアリーナが入っておりますので、何か我々も逆に元気をもらいに参加させていただいたわけでございます。本当にそういう意味では、社会福祉協議会といいますと取り上げていただける、そして、個人で行ってもなかなか取り上げていただけないというふうに話を聞いております。そういう意味でも、小杉地区社会福祉協議会で参加したというところに意義があるのかなと思っております。

この件はそんなところなんですけれども、先ほど青木さんのほうからうまくいっているということで、本当にすばらしいと思います。私も創設以来、たしか最初の試行の区民会議のときに、世代間交流の子育てということで発表させていただいた経験がございます。六、七年ぐらい前だと思います。そのときに、どこでやろうかといったときに、学校でや

ろう、中学校でやるということに意義があるんだなと。それともう１つは、吉房会長にお願いしまして、等々力いこいの家でやらせてくれないかということで、これもやらせていただけるということで、今その２カ所で小杉地区社会福祉協議会としては子育てを推進しております。その中で、丸子とほとんど同数ぐらいで西丸子小学校、それから中原中学校で一緒にやらせていただいております。本当にいろいろと勉強させていただいております。あいさつ運動も西丸子小学校で毎週月曜日、おはようございますとやっています。そして、逆に僕らは元気をもらうんです。よく最近の子供はあいさつをしても返ってこないなと言う人がいるんですけれども、私としては、返ってこようがこまいがそれは気にしないようにしています。やはりそういう姿勢を子供たちに見てもらうことによって必ずマイナスにはなっていかないなと。プラスになってくれるんじゃないかというふうに思っております。ですから、子供が悪いことをすればしかることはあるかもわかりませんけれども、こちらとしては笑顔を絶やさないようにあいさつ運動です。今、民生委員児童委員協議会でこれはやっておりますので、社会福祉協議会としてはお手伝いという形でやっております。

そういうことで、まず、今子育てで何が一番困っているかといいますと、松原委員からいろいろ資料をいただいて、私も感心しているんです。どういうことかといいますと、やはりこういう運動というのは継続こそ力なんです。そういう意味で、後に控える方々がどんどん前へ出ていただいて、そして、どんどん子供たちに接していただいて、そういう地域になって、地域の子供たちは我々で育てるんだというぐらいの気概を持っていただく。そして、そういう意味では、社会福祉協議会でやったほうがいいだろうということで、私は、社会福祉協議会でやって、どなたでもお手伝いしていただければということでございます。

そういう意味で、今、子育て支援のほうで役所にございますね。私はあそこでネットワークに参加しております。そういう中で、講師ということで先日はすばらしい先生に遭遇いたしまして、後継者をいかに育てるかといういい講習会を開いていただきました。そういうこともやっております。しかし、松原委員の場合は、自分のところでやっていると、これはすばらしいことだと思うんです。そういうことも我々地域としては見習っていかなくてはいけないなと、私は正直言ってここに来て初めて知ったので、ですから、そういう意味で、やはりこういうところへ出ていろんな方からお話を聞くことによってプラスになるなと痛感したところでございます。

以上でございます。

鈴木委員長　皆さんの意見はたくさんあると思うんです。本当は一通り皆様の意見をいつものようにお聞きしたかったんですが、今回は１回短縮されてしまった分で、皆さん心の中にまだ私も言いたいというところが山ほどあると思うんですが、ちょっとだけ、時間が迫っておりますので、藤嶋委員、簡単にお願いします。

藤嶋委員　お時間がないところ、済みません。昨日更生保護助成会でとどろきアリーナのほうにお電話をもって行ってきました。そうしましたら、１歳未満のお子さんのお母さんが、お湯を沸かしていて、ニュースがない、話し相手がいないということです。

それとあと、いつもお人形さんを抱いている人がいまして、やっぱり寂しいと。そして、１人更生保護助成会でとてもふっくらした母性愛に満ちた人を、お母さん、お母さんとその人のことを呼んでおりました。だから、話し相手になるのもまたこの区民会議でできるんじゃないかなと思いました。

鈴木委員長　ありがとうございます。手短にお願いします。

岡本委員　割り込みまして、済みません。私は、防災のほうは、防災ネットワークということで、立ち上げからずっとほとんど行っております。そうすると、今ちょっと下火になってきたというんですか、皆さん最初はどっと来たんですけれども、今ちょっと下火になっているところが結構あるので、その辺をケアしてあげたいということと、今、藤嶋委員がおっしゃったように、話し相手というのがすごく欲しいんです。そういうふうなことをしてあげたらいいのかなということ。

もう１点、育児ですけれども、子育て支援。今、松原委員のところで、私たちはよく行かせていただいているんですけれども、お母さん方が一番困っていることは、なかなか皆さんに話をできないということが一番悩みを持っていらっしゃるところなので、そこへ行ってご一緒に何となくお話ししているといろんなことを言ってきてくれます。それと、今、離乳食でお母さん方がすごく困っていらっしゃるんです。だから、離乳食というのはこんなものだということで、私たちが離乳食は特別食じゃないんですよというようなことをちょっとお話ししてあげればほっとなさるので、そういうことを経験者からお話しすることができたらいいなということがあります。

鈴木委員長　ありがとうございます。今、藤嶋委員と岡本委員から出た意見は、我々区民会議として何をしていくかという指針を実は示してくれたんじゃないかなと。何かはしょってしまってごめんなさいね。とてもいい意見だったと思います。

こういうような意見が今たくさん出ましたので、例えば、青木委員、板倉委員、松原委員、吉房委員、そして杉野委員などから、実際に団体としてしている活動をたくさん聞きましたけれども、では区民会議としてはどうしていくかということは、これから課題調査部会を設置するということに区民会議でなっておりますので、課題調査部会でより具体的に今の皆様の意見をお聞きし、あるいは、今日、そういうわけで時間がなくて皆様の意見を聞いていなくて大変申しわけないので、例えば、ペーパーで皆様のご意見を伺うような形にして、全員の意見を集約して課題調査部会で１回話し合ってもらってはどうかなと考えておりますので、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長　本日の審議は、そういうわけで、課題調査部会で話し合っていただくという

ことでお願いしたいと思います。

６　課題調査部会委員の改選・選任

鈴木委員長　この解決策を探っていく課題調査部会についてなんですが、課題調査部会は毎回テーマごとに選ぶということになっておりますので、課題調査部会委員の選出をこれから行います。事務局から課題調査部会につきまして簡単に説明していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局　事務局のほうから、課題調査部会についてご説明を申し上げます。

資料の４をごらんいただきたいと存じます。本部会につきましては、区民会議でのやりとりの審議や意見を整理いたしまして、課題解決に必要な情報の収集や調査を行いまして、区民会議での審議をより効果的に解決に向けた取り組みに発展させるための補完的な役割を果たすものとして設置するものでございます。構成委員はおおむね６名から８名程度といたしまして、部会委員につきましては、区民会議の委員長と副委員長のほかに、各課題ごとに適宜選出するものとしてございます。

開催時期は、区民会議の開催時期にあわせ適宜開催することを想定してございますが、第１回目は、本日の審議を受けまして、５月中ごろの開催を今のところ予定してございます。

事務局からは以上でございます。

鈴木委員長　ありがとうございます。それでは、区民会議条例施行規則第４条第２項におきまして、部会に所属する委員は委員長が区民会議に諮って指名すると規定されておりますので、本部会の趣旨から見まして、今回の検討テーマに関心の高い方から優先的に委員になっていただきたいと思います。

ご希望者がいらっしゃいましたら、まず希望の方からなっていただきたいと思いますので、挙手願います。――松本委員。あといらっしゃいませんか。川﨑委員、大下委員。

今、松本委員、川﨑委員、大下委員が挙手でご希望でございます。そのほか、まだ専門部会に入っていません青木委員、藤嶋委員、それから稲富委員、いかがでしょうか。――これで６人ですね。そうしましたら、きょう欠席されていますけれども、子ども部会ということで、子ども会から代表で出ておりますので、山川委員にも参加していただければなと思います。山川委員はご欠席ですので、事務局のほうから当たってみていただければと思いますので、事前に連絡してください。部会長の川連委員、副部会長の芳賀委員を含めてよろしくお願いいたします。

それでは、今合計で９名が決まりましたので、皆さんよろしくお願いいたします。本日の議題は以上のとおりとさせていただきます。

藤嶋委員　済みません。アリーナのところは、５月半ばの会議といったら全く遅くなると思うんですね。向こうへ行くんでしたら、今月中にも早く――皆さん待っているんじゃな

いかと思いますので、それはまた別の委員でも、三役が入って構成したらいいんじゃないかと思います。

鈴木委員長　それにつきましては、事務局のほうで一応５月調査部会となっていますけれども、これに間に合わすために、ちょっと時期を早目にするというふうに検討していただけますか。

事務局　了解しました。それと、私もつい先週またアリーナへ行ってまいりまして、区民会議の部会の委員の皆様も各団体ごとにご活躍をされていまして、何名かお会いしてございます。もしこの区民会議のメンバーとして参加されるのであれば、各イベントの予約表みたいなものがアリーナにございまして、もし何かこの場でやられるのであれば、３日の２時からとってございます。１時間ぐらいなんですが、もしこの場でこんな形と決めていただければ、３日だったら対応できるかと思います。

以上でございます。

鈴木委員長　ありがとうございます。それでは、今、事務局のほうから、５月３日、連休ですね。２時からあいているということなんですが――吉房委員、済みません。時間がオーバーしますけれども、よろしゅうございますか。

吉房委員　はい。

鈴木委員長　許可をいただきましたので。では、緊急に、今の藤嶋委員の提案を受けまして、課題調査部会では間に合わないのではないか、その前に区民会議でもし時間があれば何かしたほうがいいのではないかという意見、提案が出されまして、事務局から５月３日の２時から３時までだったら大丈夫だよとありました。突然ではございますが、何か提案ありますか。何かを区民会議でするということでご意見はありますか。

皆さん総論では賛成するんですが、こういう各論になると意見が出ない、そういうのがこういう会議の悪いところではないかなと私は思っております。具体的な意見をぜひ出してください。大下委員、どうぞ。

大下委員　先日私もアリーナに何度か行かせていただいて感じたことなんですが、まず私が感じたことは、どうしても小さいお子さんを抱えられているお母様がとても疲れていらっしゃるというところで、何かお母様が休憩できるような時間がつくれたらということを漠然となんですが思っているんです。ご提案させていただきます。

鈴木委員長　お母さんが休憩できる時間をつくるという提案がありました。その辺につきましては、実際にボランティアに行っている松本委員、いかがですか。

松本委員　時間も限られた中になりまして、ちょっとの間お子さんを預かるということはできるとは思うんですけれども、ただ預かってお母さんがリラックスするだけではやっぱり解消されないと思うので、そこに優しく話しかけたり、寄り添うということが必要だと思うんです。ただ、先ほど三星さんからありましたけれども、信頼関係も何もないのに、いきなり区民会議で来ましたと言って、果たしてどこまで悩みを打ち明けるかというのが

すごく難しいところがあると思うんですが、どういうことがお困りですかと聞くことはできると思うんですね。だから、まず一番初めの対面ということで、悩みを聞くというところはできると思います。その中でお子さんたちをちょっとの時間預かって、何か読み聞かせなり、外遊びなり、そういうことはできると思いますけれども、できれば親子一緒に私たちが支えるというか、お手伝いできますよみたいなことも必要ではないかなと思います。済みません。急に思いつかなくて申しわけないです。

鈴木委員長　突然なので当然だと思います。三星さんのご意見ではないですけれども、やはり心に添って、さらに信頼関係ができて、その上で初めて心を許して人に悩みを打ち明けるわけです。突然私たちが区民会議の者です、何か困っていることはございませんか、悩みを言ってくださいなんて言ったって、だれも言ってくれないと思うんです。そういうのを考えて、課題調査部会でじっくり練った上でやっても遅くはないかもしれないというふうに思います。

本当に大変悲痛な話でございますけれども、今、１カ月、２カ月で解決はできないのではないかと考えています。今たくさんボランティアの人が行って、いろんなことをされていて、たまたま５月３日のこの時間帯だけがあいているということは、ほかの時間は埋まっているということですね。いろんな方が行っていらっしゃるということではないかというふうにも考えます。ですから、ある意味、藤嶋委員の意見も私はすごく貴重で大事だとは思うんですけれども、せっかく挙手していただいて、課題調査部会で委員になってくださるという方が出ておいでなので、これから、これが終わった後、課題調査部会の方にちょっと残っていただきますので、そこで決めてくださって、その上で我々にこういうことをやりますというふうに連絡をくださってからでも、まだ５月３日では遅くはないのではないかと思います。今慌てて意見を出さなくてもいいのではないかなと考えますが、皆様、いかがですか。では、川﨑委員。

川﨑委員　今この現状として、この方々がどのように日常を過ごされているのかということも私たち実はアナウンスされていないので、ミュージアム自体にはどれぐらいの期間この方々がいらっしゃって、多分本当に長期的な支援が必要になってきているんだとは思うので、そこら辺のことも長期スパンで考えながら、今の状況をご説明いただきながら、では足りないところで私たちに何ができるのかということを考えていくことも大事じゃないかなと思うので、現状をどなたかからご報告いただけるといいのかなと思ったんですけれども、よろしくお願いします。

鈴木委員長　今そのような担当の方は事務局でいらっしゃいますか。先日こども支援室長が行かれたんですけれども。

事務局　こども支援室の豆白です。

実は役所のほうでアリーナの１階に受付がありまして、きのう実は私、朝から夜まで、また泊まり番がいるんですけれども、ちょっとお手伝いしてきましたので、現状というこ

となんですが、被災者の方は、基本的に出入り自由ということで、自転車とかバギーとかそういうのもありますので、それぞれ自分の思う行動をされているという形です。それと、きのう岡本さんもボランティアで来ていただきました。あと藤嶋さんなども炊き出しがあったということですけれども、炊き出しもここ４月いっぱいはお昼と夜と炊き出しのボランティアさんがずっと予約が入っております。ですから、その炊き出しももしそういうグループがいれば、５月の連休明けぐらいになると炊き出しのグループもいなかったような気がしますけれども、空いている日にそれぞれ予約を入れていくと。

あと、先ほどの皆さんが何かをやりたいというところなんですけれども、プレイルームというのが３階に１つあります。20畳ぐらいのところですね。あと研修室というのが２階にありまして、そこの２カ所でそれぞれのボランティアさんがいろいろな催しをして、被災者の方といろいろなゲームとか、きのうなんかは太極拳とかマッサージのグループが来て、プレイルームで希望者にマッサージをするとか、きょうは床屋さんがたしか入っているかと思うんです。プレイルームとか研修室は時間を予約して、何々をやるというのを掲示板に張るだけです。ですから、被災者にやっていますよ、来てくださいという声かけは基本禁止されていますので、掲示板を見て、やっているもの、自分が参加したいなと思うものには、被災者の方が自主的に参加するまで、基本的に呼び込みとかそういうのはできない形になっているのが現状です。きのうもマッサージとかが来ていましたので、結構多くのお年寄りの方がいらっしゃいまして、マッサージに参加されているというような形です。

一般の方は、３階に被災者がいるんですけれども、そこには市民の方は基本的には入れませんので、そこでボランティアをするということになればネームプレートを下げて３階まで行けるというような形になっています。それぞれみんな仲間同士で外へ行ったり、中で遊んだりというようなことで、トレーニングルームが自由に使えるようになっていますし、シャワー室もあります。それと、食事も昔のレストラン、今は情報センターというところなんですけれども、そこに支援物資がかなり置いてございますので、そちらでめいめいお食事をとっていただくというような形です。あと、情報センターと３階のロビーの踊り場のところにテレビがありますので、そういうので歓談をしているというような形です。

私も１階のフロアしかいなかったので、外へ出ていっている方は何人もいらっしゃるんですけれども、具体的にどういう過ごし方をしているかはちょっとわからないです。ただ、情報が欲しいというのがありまして、明細地図があるんですけれども、中原のしかないので、よその区のも欲しいとか、よそのところへ遊びに行ってみたいとか、そういうことがある。あと３階に行くと、川崎のるるぶとか、いろんな観光ガイドみたいな情報がいっぱいありまして、いろいろ行けるような形での情報を知らせる掲示板みたいのがいっぱいあります。あと、フロンターレが今度の土曜日の試合ですか、そちらに希望者を招待す

るですとか、アルテリッカしんゆりの映画とかいろんなイベントがあるんですが、あれにも招待をするですとか、ボランティアさんがそういう既成の事業に被災者の方を招待するというのも情報掲示板のところに張ってあって、希望者が申し出るということで、基本的に声かけをする形にはなっていないということです。

それと10時半に消灯なのかな、結構早い時間に消灯になりますので、言葉は悪いですけれども、それぞれ三々五々というんですか、それぞれで生活をされている。あと、若い人たちなんかは、夜外をぐるぐる走っていました。そういうことで体力づくり、衰えないようにしているのかなと。きのう１日お手伝いした関係では、そんな感想でございます。

鈴木委員長　ありがとうございました。

松原委員　ちょっと気がついたんですが、いいですか。

鈴木委員長　はい。

松原委員　私ども社会福祉協議会も４月４日に12名で炊き出しに参りました。食べているとき、お話ししているときというのは全く変わりません。楽しく、本当に愉快です。終わってしまいますと、個々に自分の間仕切りのところへ戻る。一切言葉がないですね。

そういうことを考えますと、やはり心のケアといいますか、そういうことが非常に必要じゃなかろうかと思うんですよ。だから、できましたら、区民会議で心のケアをできるような方法を何か考えられたらいかがかなと思います。

鈴木委員長　ありがとうございました。

それでは、今たくさんいろいろ意見が出ましたけれども、課題調査部会でそれらを参考意見として、区民会議として何をすべきかということを話し合っていただきたいと思います。それでよろしゅうございましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

鈴木委員長　それでは、きょう終わりましたら、課題調査部会の方は残っていただきますので、詳細について打ち合わせをしていただければと思います。

ちょっと時間をオーバーしましたけれども、本日の会議はこれで終わらせていただきます。

あと、事務局のほうから最後資料説明ということで、お願いします。

７　報告事項

事務局　時間が押してございますのに申しわけございません。事務局から何点かご説明申し上げます。

まず、参考資料１でございます。これにつきましては、前回の区民会議、１月19日の分の修正、差しかえをお願いしたいと存じます。引き続きまして、参考資料５でございます。これが平成23年度、今年度の中原区地域課題対応事業、昨年までは協働推進事業と言っておりましたものが、ことしから地域課題対応事業という形で、合計で41事業、7215万

3000円でございます。詳細につきましてはご参照いただければと思います。引き続きまして、参考資料６でございます。これにつきましては、先ほど申しましたとおり、本年度から地域課題対応事業と名前が変わりましたもので、この区民会議の中でも地域課題対応事業の検討部会を設けます。その部会の要領の改正でございます。

続きまして、第２回区民会議の日程の調整でございます。事務局から案を２日ばかり申し上げます。まず、第２回区民会議の日程でございますが、７月15日金曜日もしくは19日火曜日を考えてございます。ご都合が悪い方につきましては、また事務局までご連絡いただければと存じます。

引き続きまして、今、鈴木委員長からお話がございましたように、課題調査部会委員に選任された方につきましては、会議終了後日程調整等をまたしたいと思いますので、このままお残りいただくようお願い申し上げます。

事務局からは以上でございます。

８　閉会

鈴木委員長　ありがとうございました。

皆さん本当に意見が言い足りないと思います。きょうはちょっと消化不良で終わってしまったんですが、大変申しわけございません。予定の時間より10分オーバーしましたが、議事を終了させていただきたいと思います。皆様のご協力のおかげで円滑に進められましたことを副委員長ともどもお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

これで第１回中原区区民会議を閉会させていただきます。（拍手）

午後５時10分　　閉　会